

# 平成 21 年度日本家庭医療学会認定 家庭医療学後期研修プログラム「うおぬま」

研修プログラム責任者氏名： 根本 忠（片貝医院院長）  
 連絡先担当者氏名： 吉澤榮一（医師会事務局）  
 連絡先：〒（所在地）947-0028 新潟県小千谷市城内 2 丁目 6 番 5 号  
 （施設名）小千谷市魚沼市川口町医師会地域医療研修センター  
 TEL .0258-82-7511 FAX .0258-82-8452  
 E-Mail: ouk-med1@echigo.ne.jp

## 1. プログラムの名称

家庭医療学後期研修プログラム「うおぬま」

## 2. プログラムの概要

### 日本家庭医療学会認定家庭医療後期研修プログラム作成の経緯

小千谷市魚沼市川口町医師会（以下当医師会）では平成 15、16 年に独立行政法人国立病院機構東京医療センターの要請により、厚生労働省医系技官研修医 4 名ずつを受け入れ地域医療研修を実施した。15 年は 5 日間のカリキュラムであったが 16 年には新医師臨床研修制度を見据えた 4 週間のカリキュラムで研修を実施した。18 年からは同センターから年間 8 名の初期研修医を受け入れ、3 週間の地域医療研修カリキュラムを作成し診療所を中心に病院や介護・福祉関連施設で地域を挙げて指導を行っている。その内容と指導に対する熱意は同センターから高い評価を得ている。今回、この実績をもとに地域医療・家庭医療の魅力を全国の後期研修医にも伝えたいとの想いから当医師会地域医療研修センターより家庭医療学後期研修プログラム「うおぬま」を申請したところ、日本家庭医療学会の認定を得た。

### 1. 本プログラムの概要

本プログラムは家庭医として患者に包括的・全人的医療を継続的に提供する中で、先進医療専門医を紹介するべき症例を迅速かつ的確に判断することができ、かつ患者の疾病予防や介護福祉領域を含めた健康管理までを実践できる家庭医養成を目的として作成された。

- ① 1 年次は小千谷総合病院内科で外来・入院診療に従事し、家庭医の核となる内科全般の臨床能力を習得する。1 年間の研修終了時に日本内科学会認定内科医資格認定試験受験資格が付与される。諸学会認定医取得へのステップアップのためこの資格の取得を義務づける。
- ② 2 年次からは一般内科診療所で外来診療、在宅訪問診療、訪問看護指示、介護福祉活動マネジメント、ヘルスプロモーション、講演会活動、産業医・学校医活動など地域に密着した家庭医としての研修を行う（6～9ヶ月）。また、医療活動以外の地域行事にも積極的に参加し地域住民としての立場も経験した上で家庭医のあり方を考察する。
- ③ 一般内科診療所研修終了後から小千谷総合病院小児科または県立小出病院小児科と小児科専門診療所の連携の下で一般小児科外来・入院診療に従事する。地域柄、common disease をはじめ豊富な症例を経験できる（3ヶ月以上）。
- ④ ①～③にて研修に含まれるべき「必修研修項目」を満たす。③の研修終了後から各科ローテーションに入る。本プログラムでは当医師会に所属する病院、各科診療所の多方面からの協力により「望ましい研修項目」の外科、産婦人科、精神科、救急医学、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻科、放射線科、臨床検査の全てを研修できる。期間は指導医の都合と研修医の希望で調整するが、全科研修を必修とし家庭医として必要な知識・技能の習得に努める。また、選択として横浜めぐみ在宅クリニックでの終末期癌患者の在宅緩和ケア、小千谷総合病院麻酔科でのペインクリニック、小千谷さくら病院での神経難病診療を擁しているため、これらも研修することを強く推奨する。
- ⑤ 3 年次の研修修了前 6 ヶ月間は再び小千谷総合病院または県立小出病院勤務とし、家庭医としての総合臨床能力の確認と評価を行う。本プログラム修了後、日本家庭医療学会認定家庭医療専門医試験受験資格が付与される。
- ⑥ 修了後のオプション・コースとして日本内科学会認定総合内科専門医資格取得コースを用意してあるので、この資格まで取得し家庭医としての総合臨床能力のスキルアップを推奨する。

## 2. A I M

本プログラムの研修により以下の理念に基づく家庭医療を実践できる家庭医となること  
 理念：家庭医療とはあらゆる分野の身体疾患を管理するだけではなく、患者の精神的な側面や社会的な側面、生き甲斐や人生の信念といったスピリチュアルな側面にも配慮したヒューマンイズム溢れる全人的医療で、地域社会に深く根を下ろし、患者家族構成の把握から地域保健活動、予防医学活動、介護福祉マネジメントまでを含めた包括的な医療を指す。

## 3. OBJECTIVES

初期研修は研修指定病院で厚生労働省の指針に従って研修すれば本プログラムでの後期研修導入に支障はないと考えている。初期研修は研修指定病院でなされたものとして、ここでは後期研修医を対象とするので【1年次】は後期研修の1年次を指す。

### 初期研修

【2年間】 各自で研修指定病院にて研修することを義務づける。

### 後期研修

#### 【1年次】

地域密着型の高次機能病院で内科全般の診療ができる。

- 外来診療において内科 common disease をはじめ内科全領域の疾患の診断と治療ができる。
- 内科全領域にわたる入院患者の全身管理ができる。(臓器別ではなく患者を1人の人間・人格体とみなして管理することができ、かつ家族の精神的、社会的側面までを考慮できる)
- 1次、2次救急医療を実践できる。(短時間に患者や家族との信頼関係を構築する能力を含む)

#### 【2年次】

一般内科診療所において以下の項目を実践できる。

- 内科のみならず地域に根ざした家庭医としてあらゆる科の初期診療ができる。
- 仮面うつ病や身体表現化障害、心身症などの身体症状が前面に出る精神疾患の診断ができる。
- 先進医療を必要とする患者を迅速かつ的確に判断でき、適切な高次機能病院に紹介できる。
- 在宅訪問診療をはじめ訪問看護指示・ケアマネージャーとの連携ができ、多施設・多職種のパラメディカルによって在宅患者を多方面から支える包括的医療の中心的役割を担える。
- 患者の Family genogram を瞬時に想起し、その社会的側面までを考慮した医療を展開できる。
- 行動変容アプローチができ患者教育を行える。
- 地域でのヘルスプロモーションができる。(運動指導実践・講演会講師など)
- 学校医・産業医として適切な助言ができる。
- 日本内科学会認定内科医資格認定試験に合格できる知識を習得する。

病院小児科と小児科専門診療所と連携して以下の項目を実践できる。

- 病院小児科と小児科専門診療所において小児科 common disease の診断と治療ができる。
- 小児科入院患者の全身管理ができる。

#### 【3年次】

学会の推奨する「望ましい研修項目」全科をローテーションし以下の項目を実践できる。

- 各科の初診患者を診療し診断・治療にいたる過程を経験することで家庭医としてのスキルアップにつなげることができる。
- 各科にて家庭医に必要な検査手技・治療手技を習得し、安全かつ確実に実施できる。

本プログラムで推奨している選択科もローテーションし以下の項目を実践できる。

- 在宅緩和医療を経験し、終末期癌患者の緩和ケアと家族に対する助言を適切に実践できる。
- ペインクリニックでは家庭医のレベルに必要な神経ブロック手技を習得する。また、神経難病患者の診療を通して公的扶助についても助言できる。

#### 4.研修期間の内容

内容についてはプログラムの概要に記述した通りであるが以下に本プログラムの代表例を図示する。

##### 1年次

4月

3月

<b>1年次</b>	小千谷総合病院内科研修
------------	-------------

##### 2年次

4月

10～12月

3月

<b>2年次</b>	一般内科診療所研修	小児科研修
------------	-----------	-------

一般内科診療所研修は小千谷市4施設、魚沼市3施設のいずれかが指導にあたる。また、小児科研修は小千谷総合病院小児科または県立小出病院小児科と小千谷市1施設、魚沼市1施設の小児科専門診療所と連携して指導にあたる。

##### 3年次

4月

10月

3月

<b>3年次</b>	「望ましい研修項目」全科研修	小千谷総合病院または県立小出病院勤務
------------	----------------	--------------------

「望ましい研修項目」は全科研修を必修とし、小千谷総合病院、県立小出病院、厚生連魚沼病院各科専門診療所5施設が指導にあたる。在宅緩和ケア・ペインクリニック・神経難病診療の研修を希望する研修医は3施設の協力のもと可能である。

#### 5.研修のオプション・コース

##### ①北欧医療制度見学コース

長岡技術科学大学医用工学部・長岡福祉協会の紹介で社会保障制度が極めて充実している北欧スウェーデン、デンマークの医療制度の見学実習が可能なので、研修医の希望があればプログラム内にオプションで組み入れる。

##### ②スポーツドクター活動の研修コース

当医師会では多数の日本医師会認定健康スポーツ医と日本体育協会公認スポーツドクターが活動している。研修期間中に希望があれば健康維持のための運動指導活動や総合型地域スポーツクラブでの活動をプログラム内にオプションで組み入れる。

##### ③日本内科学会認定総合内科専門医資格取得コース

本プログラム修了後、さらに5年間を小千谷総合病院内科に勤務し臨床経験を積むことで日本内科学会認定総合内科専門医資格認定試験受験資格が付与される。

#### 3. 研修期間

(1) 初期研修： 2年（研修指定病院にて実施する。）

(2) 後期研修： 3年（本プログラムはこの部分の3年間を対象とする。）

注）初期研修を受けた研修施設と後期研修を受ける施設とが異なってもよいが、後期研修は、原則としてひとつのプログラムで習得するものとする。

ただし、理由によっては、学会の判断により変更を考慮する。

#### 4. 研修場所

##### (1) 病院施設名：

小千谷総合病院（日本内科学会認定医制度審議会認定教育関連病院）

小千谷さくら病院（日本プライマリ・ケア学会認定研修施設群・難病医療基幹協力病院）

新潟県厚生連魚沼病院

新潟県立小出病院

##### (2) 診療所機能施設名：※は学会所定の家庭医機能を満たすもの

中村内科消化器科医院、※北村医院、※さわなか医院、※片貝医院、にたはらこどもクリニック、根元整形外科医院、山下メンタルクリニック、安藤眼科、（以上小千谷市）、※上村医院、※魚沼市国民健康保険守門診療所、中島脳外科内科医院、うおぬま小児クリニック、廣川医院、たちばな皮ふ科クリニック（以上魚沼市）、めぐみ在宅クリニック（横浜市）

## 5. 人 材

(1) 研修プログラム責任者（家庭医療指導医でなければならない）：

[ 1 ] 名

（※別紙「家庭医療指導医等申請書」及び「家庭医療指導医申請書」に記載のとおり）

(2) 家庭医療指導医（家庭医療指導医の要件\*を満たしていなければならない）：

[ 1 ] 名

（※別紙「家庭医療指導医等申請書」及び「家庭医療指導医申請書」に記載のとおり）

(3) 各々の専門診療科指導医（家庭医療専門医以外の専門診療医でも可能）：

[ 42 ] 名

（※別紙「家庭医療指導医等申請書」に記載のとおり）

(4) 診療所機能施設で研修に携わる医師のうち、上記指導医に該当しない医師：

[ 0 ] 名

（※別紙「家庭医療指導医等申請書」に記載のとおり）

## 6. プログラム内容

## I. 全研修期間を通して、恒常的に行われているべき研修項目

（それぞれの項目が主として教育される研修時期・場面をそれぞれの項目の右欄に記すこと）

- |                            |   |
|----------------------------|---|
| (1) 外来における患者中心のケア          | 1～3年次 小千谷総合病院、県立小出病院、魚沼病院、中村内科消化器科医院、北村医院、さわなか医院、片貝醫院、根元整形外科医院、山下メンタルクリニック、安藤眼科、にたはらこどもクリニック、上村医院、廣川医院、たちばな皮ふ科クリニック、うおぬま小児クリニック、魚沼市国民健康保険守門診療所、中島脳外科内科医院                |
| (2) 近接的なケア（1次医療機関である必要がある） | 2年次以降 中村内科消化器科医院、北村医院、さわなか医院、片貝醫院、根元整形外科医院、山下メンタルクリニック、にたはらこどもクリニック、上村医院、うおぬま小児クリニック、魚沼市国民健康保険守門診療所、中島脳外科内科医院   |
| (3) 継続的なケア                 | 2年次以降 中村内科消化器科医院、北村医院、さわなか医院、片貝醫院、根元整形外科医院、山下メンタルクリニック、安藤眼科、にたはらこどもクリニック、上村医院、たちばな皮ふ科クリニック、うおぬま小児クリニック、魚沼市国民健康保険守門診療所、中島脳外科内科医院、めぐみ在宅クリニック                              |
| (4) 包括的なケア                 | 1～3年次 小千谷総合病院、小千谷さくら病院、県立小出病院、中村内科消化器科医院、北村医院、さわなか医院、片貝醫院、根元整形外科医院、山下メンタルクリニック、安藤眼科、にたはらこどもクリニック、上村医院、廣川医院、たちばな皮ふ科クリニック、うおぬま小児クリニック、魚沼市国民健康保険守門診療所、中島脳外科内科医院、めぐみ在宅クリニック |
| (5) 保健や介護関連の活動             | 1～3年次 小千谷総合病院、小千谷さくら病院、県立小出病院、中村内科消化器科医院、北村医院、さわなか医院、片貝醫院、根元整形外科医院、山下メンタルクリニック、にたはらこどもクリニック、上村医院、廣川医院、たちばな皮ふ科クリニック、うおぬま小児クリニック、魚沼市国民健康保険守門診療所、中島脳外科内科医院                 |
| (6) 家族志向、地域志向のケア           | 2年次以降 中村内科消化器科医院、北村医院、さわなか医院、片貝醫院、根元整形外科医院、山下メンタルクリニック、にたはらこどもクリニック、上村医院、うおぬま小児クリニック、魚沼市国民健康保険守門診療所、中島脳外科内科医院、めぐみ在宅クリニック  |

<b>II. 研修に含まれるべき項目</b>	
<b>II-1. 必修研修項目</b>	
(1) 診療所研修の有無（総合的な診療科、後期研修中に継続的に最低6ヶ月）：	ある
(2) 内科研修の有無（後期研修中にブロックで最低6ヶ月；入院・外来研修）： 注）内科（臓器別内科でないこと）、総合（一般）内科、総合診療科で研修が行われる必要がある。	ある
(3) 小児科（後期研修中にブロックで最低3ヶ月；入院・外来研修）： 注）総合的に小児科領域が研修できる必要がある。	ある
<b>II-2. 望ましい研修項目</b>	
(1) 外科 注）一般外科等、専門臓器別外科を標榜していない施設での研修が望ましい。：	ある
(2) 産婦人科：	ある
(3) 精神科または心療内科：	ある
(4) 救急医学 注）1次または2次救急施設での研修が望ましい。：	ある
(5) 整形外科：	ある
(6) 皮膚科：	ある
(7) 泌尿器科：	ある
(8) 眼科：	ある
(9) 耳鼻科：	ある
(10) 放射線科（診断・撮像）：	ある
(11) 臨床検査・生理検査：	ある
(12) 選 択：	ある（在宅緩和医療、ペインクリニック、 神経難病診療、スポーツ医学）
<b>7. 評価するシステムがある</b>	
各指導医療機関での研修終了時に提出したポートフォリオにて形成的評価を行う。その上でA I Mに あった家庭医としての資質を習得する方略とする。また、総括的評価としてプログラム全課程修了時に 総括ポートフォリオ評価と指導医との面接試験を実施する。日本家庭医療学会認定家庭医療専門医試験 合格をもって最終的評価とする。	
<b>8. プログラム登録者名（*会員であること）</b>	
[ 2 ] 名（予定） （※別紙「家庭医療指導医等申請書」及び「後期研修プログラム研修医登録申請書（新医師臨床研修制 度開始以前）**」に記載のとおり）	
**「研修医登録申請書」を以って申請する後期研修プログラム研修医に新医師臨床研修制度開始以前の医師が含まれる 場合は、該当者一名につき一枚の「研修医登録申請書」とともに申請して下さい	
<b>9. 後期研修プログラム登録者の定員</b>	
[ 2 ] 名	